

平成29年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成29年11月10日

上場会社名 株式会社デジタルアドベンチャー 上場取引所 東
 コード番号 4772 URL http://www.digiadv.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 崔 官鎔
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 大山 智子 TEL 03-6809-6118
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期第3四半期の業績（平成29年1月1日～平成29年9月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第3四半期	5,459	—	279	—	283	—	270	—
28年12月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第3四半期	16.36	16.34
28年12月期第3四半期	—	—

(注) 1 当社は、平成28年12月期第3四半期は連結業績を開示しておりましたが、平成29年12月期第1四半期より非連結での業績を開示しております。そのため、平成28年12月期第3四半期の経営成績（累計）及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2 平成29年7月1日付で、普通株式について10株を1株の割合で株式併合を行ったため、当事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年12月期第3四半期	6,785	4,606	67.7	278.14
28年12月期	5,439	4,347	79.5	261.79

(参考) 自己資本 29年12月期第3四半期 4,592百万円 28年12月期 4,322百万円

(注) 平成29年7月1日付で、普通株式について10株を1株の割合で株式併合を行ったため、前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年12月期	—	0.00	—	—	—
29年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成29年12月期の業績予想（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,450	64.4	300	—	310	—	290	—	17.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

業績予想の修正については、本日（平成29年11月10日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※当社は、平成29年7月1日付で、普通株式について10株を1株の割合で株式併合を行ったため、平成29年12月期の業績予想における1株当たり当期純利益については、株式併合を考慮した金額を記載しております。なお、株式併合を考慮しない場合の平成29年12月期通期の1株当たり当期純利益は1円76銭となります。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年12月期3Q	16,520,351株	28年12月期	16,520,351株
② 期末自己株式数	29年12月期3Q	9,050株	28年12月期	8,452株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年12月期3Q	16,511,666株	28年12月期3Q	10,088,747株

（注）平成29年7月1日付で、普通株式について10株を1株の割合で株式併合を行ったため、前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数および期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、四半期決算短信〔添付資料〕3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は、前期（平成28年12月期）まで連結決算を行っていましたが、平成28年5月1日付で持分法適用関連会社KNTV株式会社を吸収合併したこと及び他の連結子会社2社の重要性が乏しいため、当期（平成29年12月期）から単体決算のみを開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(追加情報)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済、金融政策によって企業収益と雇用環境に改善が見られたものの、ヨーロッパやアジア新興国等の経済の先行き、米国の政治や経済の動向など海外経済の不確実性に加え、世界的な地政学的リスクの高まり等により、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような経営環境の中、当社の当第3四半期累計期間においては、放送事業での2チャンネル運営による収益の継続的な安定化が図れたこと、著作権事業が好調であったこと、第2四半期累計期間から引き続いてイベント開催があった等により、売上高および利益とも大きく伸びております。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は54億59百万円、営業利益2億79百万円、経常利益2億83百万円、四半期純利益2億70百万円となっております。

なお、当社は、前第3四半期累計期間については四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期との比較分析は行っておりません。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(物販事業)

イベントでのグッズ販売および防弾少年団「LOVE YOURSELF 承'Her」CD発売等により、売上高および利益とも増加しております。

この結果、売上高は2億71百万円、セグメント利益は19百万円となっております。

(ライセンス&メディアコミュニケーション事業)

イベント・マネジメント事業では、キム・ヒョンジュン除隊後初となるソロ全国ツアー「KIM HYUN JOONG JAPAN TOUR 2017 "INNER CORE"」を6月から7月に全国18都市21公演開催、防弾少年団のアリーナツアー「2017 BTS LIVE TRILOGY EPISODE III THE WINGS TOUR ~Japan Edition~」を5月から7月に全国6都市全13公演開催、またINFINITEのL（キム・ミョンス）とソンギユの日本初ソロファンミーティングを9月に開催しております。

著作権事業では、第2四半期累計期間に引き続き、大型ドラマ版権のDATV、KNTVでの放送をはじめ、CS・BS・地上波での放送が続々決定しており、DVD・VOD化事業も好調に推移しております。

この結果、売上高は34億30百万円、セグメント利益は1億38百万円となっております。

(放送事業)

自社テレビ局「DATV」と「KNTV」は、第2四半期累計期間に引き続き、2チャンネルの特性を活かした番組提供と継続的なプロモーション展開により視聴者の獲得を図ってまいりました。また、KNTVは長崎ケーブルメディアをはじめとした長崎・佐賀の両県で4社のケーブル放送が決定し、7月から順次放送がスタートしております。

DATVは、「FIRE! 進撃のBTS特集」、「おかえりなさい! 東方神起特集」「私たちのSUPER JUNIOR! 特集」でそれぞれメンバー出演のバラエティやドラマ等を一挙放送、2PMのリアルバラエティ「2PM WILDBEAT」など、人気アーティストの番組を続々放送し、KNTVは、クオン・サンウ3年ぶりのドラマ「推理の女王」、パク・ソジユン&キム・ジウォン共演ラブコメディ「サム、マイウェイ」（原題）、パク・ミニョン&ヨン・ウジン&イ・ドンゴン共演の歴史ロマンス「七日の王妃」（原題）などドラマ中心に日本初放送し、話題を提供してまいりました。

この結果、売上高は18億20百万円、セグメント利益は1億20百万円となっております。

(その他事業)

その他事業のうち、デジタルコンテンツ配信においては、前事業年度より大きな動きはなく、この結果、売上高は13百万円、セグメント利益は1百万円となっております。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期会計期間末における資産は、67億85百万円となり、前事業年度末に比べ13億45百万円増加しました。この主な要因は、現金及び預金が3億67百万円増加、売掛金が13億91百万円増加、および前渡金2億78百万円が減少したことによるものであります。

（負債）

当第3四半期会計期間末における負債は、21億78百万円となり、前事業年度末に比べ10億86百万円増加しました。この主な要因は、買掛金が6億61百万円増加、およびその他が4億4百万円増加したことによるものであります。

（純資産）

当第3四半期会計期間末における純資産は、46億6百万円となり、前事業年度末に比べ2億59百万円増加しました。この主な要因は、利益剰余金が2億70百万円増加したことによるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年12月期の業績予想については、最近の業績動向を踏まえ、平成29年5月10日に公表いたしました通期の業績予想を修正しております。

詳細については、本日（平成29年11月10日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,894,590	2,261,652
売掛金	558,768	1,950,265
コンテンツ	257	219
商品	1,130	178
番組勘定	896,477	761,913
コンテンツ事業権	600,726	719,919
貯蔵品	863	127
関係会社短期貸付金	30,000	50,000
前渡金	1,002,041	723,285
その他	228,388	110,215
貸倒引当金	△399	△1,108
流動資産合計	5,212,844	6,576,669
固定資産		
有形固定資産	32,838	52,287
無形固定資産	29,215	63,908
投資その他の資産		
投資有価証券	39,731	39,731
関係会社長期貸付金	70,000	—
その他	152,050	149,709
貸倒引当金	△96,685	△96,555
投資その他の資産合計	165,096	92,884
固定資産合計	227,150	209,081
資産合計	5,439,995	6,785,750
負債の部		
流動負債		
買掛金	813,589	1,474,827
その他	265,175	669,667
流動負債合計	1,078,765	2,144,494
固定負債	13,860	34,405
負債合計	1,092,626	2,178,900
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,591,492	4,591,492
資本剰余金	1,825,566	1,825,566
利益剰余金	△2,061,786	△1,791,624
自己株式	△32,621	△32,914
株主資本合計	4,322,650	4,592,519
新株予約権	24,718	14,331
純資産合計	4,347,368	4,606,850
負債純資産合計	5,439,995	6,785,750

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
売上高	5,459,894
売上原価	4,397,667
売上総利益	1,062,226
販売費及び一般管理費	782,937
営業利益	279,289
営業外収益	
受取利息	2,477
貸倒引当金戻入額	130
債務消滅益	5,372
その他	666
営業外収益合計	8,646
営業外費用	
支払利息	231
為替差損	4,062
その他	16
営業外費用合計	4,310
経常利益	283,625
特別利益	
固定資産売却益	1,570
新株予約権戻入益	18,712
特別利益合計	20,282
特別損失	
固定資産除却損	8
減損損失	717
特別損失合計	725
税引前四半期純利益	303,182
法人税、住民税及び事業税	33,020
法人税等合計	33,020
四半期純利益	270,162

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期累計期間（自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	物販	ライセンス&メディア コミュニケーション	放送	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	271,970	3,356,544	1,817,879	5,446,394	13,500	5,459,894
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	74,213	2,485	76,698	—	76,698
計	271,970	3,430,757	1,820,364	5,523,092	13,500	5,536,592
セグメント利益	19,404	138,609	120,198	278,212	1,077	279,289

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デジタルコンテンツ配信事業及び音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	278,212
「その他」の区分の利益	1,077
四半期損益計算書の営業利益	279,289

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。